

大木 拓朗 18歳

「正直、独立リーグのことってあまり知らなかったんです。だからドラフトで指名された時も『あ、そうなんだ』って、実感もあまりなくて」

「みんなヤバイんです。体が違うっていうか、オーラがあるっていうか。レベルがすごく高い。でも、その中で自分も挑戦できるので、すごくワクワクしてます」

プロ野球独立リーグ・BCリーグに今春から参戦する群馬県初のプロ野球チーム「群馬ダイヤモンドペガサス」に入団した大木拓朗。投手・18歳。これからの戦いを待ち望むその言葉には、18歳とは思えぬ頼もしさと自信が溢れていた。

小学校3年生の時、地元の少年野球チームの監督に誘われて始めた。「最初はあまり面白くなかったです。空手とか柔道をやりたかったんですが、体が小さくて」

しかし、すぐに野球の虜になった。本格的に投手になったのは、当時、監督であった父親から指導を受けた小学校5年生のとき。このころから「やるならプロで」と将来の夢を掲げた。

「投手とは」という質問に「まずは、試合をきちんと作れるか。試合を任された以上、完投したい」と語る。「投手として速球には、こだわっています。どんな打者でも三振に取ってやる。いつもそう思って投げてます」

球速は昨年秋、MAX146kmを記録。この冬は、走り込みやウェイトトレーニングで下半身を強化し、その速球にさらに磨きをかけた。

応援してくれる人たちにメッセージを聞いてみると、「今までいろいろな人たちに支えてもらい感謝しています。特に親には迷惑を掛けたと思います。プロになって少しは親孝行ができたと思うのですが、さらに上に行ってもっと親孝行がしたいです」

最後にプロで対戦したい相手を聞いた。「同学年の中田翔くんですね。今年は違うリーグですが、今に見てらって感じです。絶対三振に取りますよ」

■プロフィール■

おおき・たくろう 1989年9月18日、久屋原町生まれ。利南東小→沼田東中→利根商高。小学校3年生から野球を始め、中学校では沼田選抜として全国大会に出場。昨年夏の全国高等学校野球選手権群馬県大会4回戦では、優勝した前橋商高に敗れるも、MAX146kmの速球が注目を集める。175cm、73kg、18歳。

3月26日春季キャンプにて



LIENS de COMÉTES

人と人のきずな、人と環境のきずな、地域のきずな…。
さまざまな「きずな」がそこにはあった。
一夜限りのイルミネーション。
冬の夜空に幻想的に浮かび上がった「巨大なツリー」に、みんなが
驚いた、泣いた、そして笑顔になった。

星の絆プロジェクト



日没とともに浮かび上がる青と白の幻想的な光。
昨年、十二月一日、沼田市で初めての取り組みが行われた。その名は「星の絆プロジェクト」。
「三角山」の愛称で、以前から市民に親しまれている戸神山を冬の名所にしようと、商工会議所青年部のメンバーが中心となり実行委員会（高橋和朗委員長）を結成。市民や市内の中学三年生にも作成を依頼し、約千五百本の「絆ライト」を作り上げ、同山中に設置した。
夕方から行われた記念式典には地域の人たちが多くの親子連れなどが訪れ、冬の夜空を飾った一夜限りのイルミネーションに酔いしれていた。

